

伊豆大島三原山噴火から20年、大島で学ぶ

東京消防庁

矢口消防少年団(団員28名・指導員等7名)は7月30日と31日、自然災害(火山の噴火)を学ぶため伊豆大島を訪れました。この訪問は、大島町消防本部の協力を得て実現したもので、署員の皆さんから当時の噴火の様子、島民の避難、消防活動についての話を伺いました。火山博物館で火山活動、火山の歴史について学習し、三原山では、火口を一周して火口の大きさ、溶岩の流れの跡を見て噴火の凄さを実感しました。少年団は、この訪問を通して、災害時には人と人との協力がいかに大切かを学びました。



大島町消防本部の署員から説明を受ける少年団

職員を対象に接遇対策研修を実施

尾三消防本部

尾三消防本部は7月11日、中堅職員(課長補佐、係長職相当)50名を対象に実技を含めた「接遇対策研修」を実施しました。講師にJ A L アカデミー(株)接遇インストラクターの高橋典子氏を招き、「消防職員に期待されるマナーとその必要性について」と題して、「クッション言葉」や「肯定的表現」を利用した会話術などの必要性とその効用について講義を受けました。職員からは、現場活動上の住民対策やトラブル防止を目的とした質問が相次ぎ、大変有意義な研修となりました。



接遇対策研修の様子

消防通信

望

楼

ぼうろう

児童・保護者を対象にした着衣泳法を指導

天草広域連合消防本部

天草広域連合消防本部中央消防署東天草分署は7月15日、市立高戸小学校の児童・保護者約80名を対象にした、着衣泳法の指導を実施しました。この指導は毎年実施しており、今回で6回目となります。当日は、普段着のまま靴を履いた状態で、水中での動きを実際に体験し、イザという時に備えることを目的としました。天草地域は周囲を海に囲まれているため、海で遊ぶ機会も多く、着衣のまま浮く方法やペットボトル、ビニール袋を利用して浮く方法に児童らは一生懸命取り組んでいました。



着衣泳法の体験

米軍消防本部と合同訓練を実施

比謝川行政事務組合ニライ消防本部

ニライ消防本部は7月13日と14日の2日間、嘉手納基地米軍消防本部とB C災害等を想定した合同訓練を実施しました。初日は、嘉手納基地のNBC専門トレーナーによる物資の特定方法等に関する講義と図上訓練を行い、2日目には、嘉手納基地内訓練場において、航空機火災、建物火災及びB C災害の同時発生を想定した訓練を行いました。訓練では、両消防本部の合同指揮本部の設置や災害発生時の連携等の訓練を行い、有事の際に迅速かつ的確な対応ができるように取り組みました。



B C災害を想定した合同訓練

消防通信／望楼では消防本部、消防団からの投稿を随時受け付けています。